

# 平成29年12月市議会定例会より

## 〜工藤市長の一般行政報告〜

11月29日から13日間の会期で開催された市議会定例会では、初日の一般行政報告をはじめ、12月補正予算の審議などが行われました。  
※市ホームページにも掲載しています。



### 平成29年度上期の観光について

「北海道観光入込客数調査要領」に基づく、本年4月から9月の上期の観光入込客数は、総数39万9700人、前年比、1万5800人、4.1%の増加となり、昨年同様、好調を維持することができました。

その要因としては、北海道全体の外国人観光客の増加や、個人や家族・グループなど、少人数の観光客の



本市を訪れる観光客

増加、さらには、割安な航空運賃を利用した東京便、千歳便の利用客の増加や、FDAチャーター便の、安定した就航実績などが考えられます。

特に本年は、航空機において、東京便と千歳便合せで、前年比、約5900人、4.8%増加し、FDAチャーター便は、全国24空港から、送客数が1万人を超え、前年を上回りました。

また、自家用車やレンタカーのほか、自転車で観光地をまわる旅行者も、多く目立ちました。

外国人観光客については、宿泊延数が、平成26年度に1万人泊を超えました。が、本年、上期だけでも約1万4000人泊、前年に比較し35.2%の増と、大幅に増加しています。

国別では、アジア地域が約7割を占め、特に香港、韓国、中国が大きな伸びを示しており、ほかにも、アメリカ、オーストラリア、さらには、サハリン定期航路の運航の効果もあり、ロシアからの来訪も、前年に比べ増加しています。

外国人観光客の誘客促進に向けて、広域観光周遊ルート「日本のてっぺん。きた北海道ルート」事業で、

昨年度策定された、3つのモデルコースを基本とした事業展開が、10月から、本市を含めた、留萌・宗谷管内で進められています。

事業内容としては、台湾、香港、タイの海外メディアを招いたPR活動をはじめ、航空機やJRなどの幹線交通から、タクシーに乗り換え観光地をまわる、「小型観光周遊ルート」や、増加傾向にある、自転車で観光地をまわる「サイクルツーリズム」の実証事業などが実施されています。

これらの事業に対し、参加している海外の関係者からは、大変好評価をいただいていると伺っています。

また、年度末に向けては、専用ホームページや、PR動画の作成なども行われているところとです。

本市としては、これらの事業を活用し、下期も好調を維持できるよう、官民が連携し、本年度全体の観光入込客数の増加につなげていきたいと考えています。

### 国内友好都市への訪問について

このたび、友好都市である、鹿児島県枕崎市と、沖縄県石垣市へ訪問してきましたので、概要をご説明申し上げます。

枕崎市へは、友好都市となり、初めての訪問団として、関係団体、一般公募による市民の皆さん20人のほか、高校生交流事業として、稚内高校から3人が、10月21日から「まくらぎ秋の市」に合わせ、3泊4日の日程で訪問しました。

枕崎駅では、初めての訪問団ということもあり、盛大な歓迎を受けました。

予定されていた「まくらぎ秋の市」は、残念ながら、台風の影響で中止となりましたが、歓迎交流会では、本市の歴史や、特産品の一つであり、「コンカツ」事業の原点とも言える、「利尻昆布」の紹介をさせていただき、お互いの特産品の販売促進などについて、経済界同士の交流が図られました。



稚内市民訪問団一行(枕崎駅前にて)

また、市内各所への訪問や、枕崎の代表的な特産品の製造拠点である、焼酎蔵や鯉節工場への訪問など、枕崎市の歴史や伝統に触れる、素晴らしい機会となりました。

善・友好・ゆかりのまち大交流会」が行われ、本市市議会議員の皆さん同席のほか、これまでの、各界各層の交流の歴史をさらに積み重ね、両市の発展をめざした、「友好都市提携30周年記念宣言」に署名を行い、今後、ますますの交流促進を確認し合ったところです。

また、「市民大パレード」における、「南極おどり」披露や、「島まつり」、さらには「大交流会」における、本市の小中学生を中心とした稚内海峡太鼓保存会による演奏では、石垣市民から大きな声援をいただき、本市の文化や伝統が、石垣市民の皆さんに伝わったものと受け止めています。



「稚内海峡太鼓保存会」による演奏

今回の訪問は、両市との絆が強まっただけでなく、次世代への強い繋がりを実感させるものでした。

今後とも、両市とさまざま